



熱田神社祭礼

～練習に励む子どもたち～



▲お囃子の練習風景

今月のレポーター

加古 媛子

大府市在住の大学三年生。名古屋学芸大学ヒューマンケア学部において、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の資格を取るべく日々学んでいます。



鳴り響く笛や太鼓の音……。大府公民館の三階の一室では、中組若連の子どもたちが、10月14日(土)、15日(日)の熱田神社祭礼に向けて、お囃子の練習に励んでいます。

練習には、小学校低学年から高校生のメンバーが来ています。メンバーは、横笛を吹いたり、力いっぱい大太鼓を叩いたり、難しい小太鼓に挑戦したりしています。特に、大太鼓や小太鼓は祭礼当日に町を巡る山車の上で叩くため、大きな音で格好良く叩けるようにと練習にも熱が入ります。子どもたちは、お囃子について「憧れだった小太鼓を練習でき

るようになってうれしい」「去年で辞めてしまった子もいるけれど、自分は続けることで上達できたから、続けた方が良いと思う」などと話してくれました。また、本番に向けて「年間間違えてしまったところを間違えずにできるようにしたい」「山車の上で小太鼓を叩けるようになることが目標」「1番難しい曲を山車の上で叩けるようになりたい」と意気込んでいました。実は、私も小さい頃から参加してきた中組の一員です。今では指導する立場となり、どんどん上手になっていく子どもたちの姿を頼もしく思っています。

80年以上の歴史がある中組のお囃子神事。ですが50年ほど前、参加者の減少により、消滅してしまったことがあります。どのように復活したのでしょ。復活した際の初期メンバーの方に、その当時の様子をお聞きしました。

消滅してから10年ほど経った頃、「大府の祭りをもう一度」という声が高まり、復活に向けて地域の人々が動き出しました。復活の際に特に大変だったのは、お囃子のできる人、メロディーを知っている人が数人しかいなかったことだそうです。集まった子どもたちと一緒に大人も練

習し、できるようになる人が少しずつ増えていきました。中組の再出発から今年で39年目。何世代にもわたって受け継がれてきたこの祭りが、これからも続いていくことを願っています。

祭り前日の14日の夕方、山車とお囃子の行列が町を巡ります。そして15日の朝、祭礼に参加する中組、北組、南組の山車とお囃子が熱田神社に集まりお祓いを受けます。3つの山車が境内を回る様子は迫力満点。境内ではその後、駆け馬や餅投げなどが行われ、さまざまな屋台も並び、多くの人でにぎわいます。そして山車は夕方、神社を出発して再び町を巡るのです。

山車が町を巡るときには、地域の方々に綱を引いていただきます。一緒に祭りを楽しんでみませんか？大きな太鼓の音や「わっしょーらーい」という掛け声が合図です。揃いの法被を身にまとい、格好良く演奏する子どもたちの姿をぜひ見に来てくださ



▲集まった3組の山車



認めあおう！ 自分らしさ

青少年女性課 ☎(45)6219

さまざまなDVの形



ドメスティック・バイオレンス(DV)とは、配偶者や恋人など、親密な関係にあるパートナー間の暴力のことを言います。

DVや暴力と聞くと、殴る、蹴るなど直接的なものを想像しがちですが、他にもさまざまな暴力があります。今回は、どんなことがDVにあたるのかを紹介します。

- 身体的暴力** 殴る、蹴る、物を投げつけるなど
- 精神的暴力** 大声で怒鳴る、無視する、電話やメールを無断でチェックするなど
- 経済的暴力** 生活費を渡さない、仕事を制限するなど
- 社会的暴力** 行動を細かくチェックする、友人との付き合いを制限するなど
- 性的暴力** 性行為を強要する、避妊に協力しないなど

DVは、主に家庭内で起きるため、双方にその認識がないことや、周囲の人も気付きにくいことから、被害が長期間放置されている事例も少なくありません。また、目撃した子どもの心身に大きな影響を与えるため、当事者間の問題にとどまりません。より多くの人がDVについて知ること、見過ごされがちな事例について、当事者や第三者の視点から気付くことができるかもしれません。

次回は、実際にあった相談事例を紹介します。



消費生活相談

格安スマホ 契約前によく確認しましょう！

■相談事例(60代・男性)

格安スマホをインターネットから契約した。使い方や不明な点を問い合わせたいが、実際の店舗がなく、サポートの電話窓口は、何度かけても話し中でつながらない。

家族や周りの人に聞きながら使ってきたが、事業者直接向きたいことがある。何とかしてほしい。



■事例に関するアドバイス

- 格安スマホ会社の中には実際の店舗がなく、故障時の対応や問い合わせ窓口が電話やホームページなどに限られている場合もあります。契約前にサポート体制などのサービス内容についてよく確認しましょう。
- 格安スマホは、独自のメールアドレスの提供がなかったり、故障時に代替機の貸し出しサービスが有料であったりするなど、今までの携帯電話会社とサービス内容が異なる場合があります。自分が必要とするサービスを確認し、よく検討してから契約するようにしましょう。
- 格安スマホの契約前には、解約方法や解約料についてもよく確認するようにしましょう。

商工労政課 ☎(45)6227 ■消費者ホットライン ☎188 ■市消費生活センター ☎(45)4538



7月に行われた外国人のための防災講座に、通訳として行ってきました。参加者の多くは市内の企業や派遣会社で働く外国人研修生でした。

講座では地震対策の講話や、AEDや消火器の実践、地震や煙体験などが行われました。今回多くの研修生が参加したことは雇用する企業が日本の防災を学ばせたいという意識の表れなのでとてもいいことだと思います。同時に、防災意識を外国人市民に持ってもらうと、いざというときにお互いを助ける「共助」にもつながると思います。



▲消火器の使い方を練習する外国人市民

市では地域総ぐるみ防災訓練をはじめ、自治区をベースにした防災訓練を毎年行っています。オーストラリアでも台風や山火事などの自然災害があるので防災意識はありますが、自治区がないため、あくまでも個人レベルにとどまり、地域がまとまって防災に取り組むということはありません。こうした防災訓練は日本独特の誇れる文化の一面だと感じます。



料金受取人払郵便

大府郵便局
承認

707

差出有効期限
平成30年4月30日まで
(切手を貼らずに
お出してください)

郵便はがき

4 7 4 8 7 9 0

〈受取人〉

大府市役所
広報広聴課 行



広報おおぶ「みんなの声」専用はがき

年齢／ 歳 性別／ 男・女

広報おおぶの今後の編集や企画に生かしていきたいと思っています。
ご意見をお聞かせください。

広報広聴課 ☎(45)6214

「みんなの声」使い方

- 1 広報紙から切り取ってください。
- 2 アンケート欄に記入してください。
- 3 半分に折り内側全面をのり付けしてください。
- 4 ポストに投函してください。

※広報おおぶに関するアンケートは、市ホームページでもお答えいただくことができます。

広報おおぶは1日号と15日号の月2回発行していますが、今年度より、8月と1月は合併号とし、月1回発行にしました。

- Q1** 広報おおぶの発行回数についてどう思いますか？
また、なぜそう思いますか？ 理由をお聞かせください。
- ①月1回が良い ②月2回が良い ③どちらでも良い

理由

- Q2** 今後取り上げてほしい企画や広報おおぶへのご意見・ご要望をお聞かせください。

共通の趣味はスクエアダンス！ 息の合ったステップで寄り添い50年



さかえ まさお
水田旺さん・水田雅穂さん
(72歳・76歳、東新町)

挙式：昭和42年5月28日
(寄り添い50年)

◆馴れ初めは。

【雅穂】学生時代に名古屋フォークダンス学友会で。お互い男子校、女子校だったから、ダンスパートナーを求めて出向いたときに出会いました。

◆ご一緒になってどのくらい？

【旺】かれこれ今年で結婚50周年みたい。金婚式を2人の娘や孫たちに、豊田市のホテルで祝ってもらえました。うれしかったですね。

◆夫婦円満の秘訣は。

【旺】互いに自然体でいることかなあ。そもそもお父さんは趣味が多くて、ケンカする暇もないんだけどね(笑)

◆現在の楽しみは。

【雅穂】たくさんあるけど、一番は、大府スクエアダンスクラブで、夫婦そろって15年間ダンスを続けていること。毎週火曜と土曜に北山公民館でやとるんです。今年は全国大会が仙台で開かれたんで、趣味の道の駅巡りも兼ねて、車で向かい参加しました。

◆ご夫婦そろってお元気ですね！

【雅穂】それは本当にありがたい。今でもダンスや車の運転ができるのは、体が丈夫なおかげだよ。

【旺】私もおかげさまで、デイパーク大府で17年間、調理員を勤めることができています。作るのも食べるのも好きなんです。

【雅穂】母さんの作るうまいごはんが、元気の秘訣なのかなあ。



3歳以下のおおぶキッズをご紹介！

掲載希望の方は広報広聴課へご連絡ください。

広報広聴課 ☎(45)6214



右田 和心さん

平成28年12月19日生まれ
和也さん(父) 有紀さん(母)

とーちゃん譲りのニコニコ笑顔と眉毛が自慢ななごみだよ。抱っこしてもらうことと、お歌と、食べることが大好き！早くいろんな美味しいものをみんなで楽しく食べられるようになりたいな。



大平 創太さん

平成28年12月9日生まれ
光一さん(父) 茜さん(母)

こんにちは！
僕は8人大家族の希望の星、創太です。

たくさん食べて、いっぱい遊んで毎日最高の笑顔で皆を癒してます★

広報おおぶの紙面を飾ってくださる方を大募集！

募集しているのは、「金婚カンコン」「みんなにごあいさつ」「表紙などの読者モデル」。掲載された方には、掲載した写真を、広報おおぶの表紙風に加工してプレゼント。記念に1枚いかがですか？ 詳細は市ホームページをご覧ください。

問い合わせ 広報広聴課 ☎(45)6214



思い出の風景から織りなす多彩な塗り絵

臼井 光子さん

子どもの頃、誰しもが遊んだ塗り絵。最近では「大人の塗り絵」がブームになったりと、塗り絵はどの世代にも親しみのあるものになりつつあります。

若草町在住の臼井光子さんも塗り絵に取り組んでいる一人。臼井さんはなんと95歳。デイサービスなどを利用しながら自宅で在宅療養をしています。

臼井さんが塗り絵を始めたのは3年前。訪問看護師の方から頭と手先のトレーニングのために出された宿題が塗り絵でした。最初は「絵を描くのも苦手なのに、塗り絵なんてできるのかしら」と不安になったそうです。実際に塗りだしてみると、色の配色を考えるのが楽しくなってきたという臼井さん。塗り絵を始めてから、毎日やる気とハリが生まれ、性格が前向きになったそうです。

臼井さんの塗り絵には、色彩がとても豊かで、明るい作品が多くあります。塗る前には約30分かけて配色を考えるそうで、「お手本があるのではなく想像で塗る色を決めています。きれいに見えるように明るい色にし



たり、濃くしたりと工夫しているんですよ」と塗り方のこだわりを教えてくださいました。

豊かな色の表現のルーツは臼井さんが今まで体験したことや見た風景からきています。幼少期に見ていた静岡の景色、歌舞伎座で見た歌舞伎、テレビで見た風景などを頭の中で思い出しながら、素敵な塗り絵を仕上げます。

今後の夢を伺うと「展示会をして、見た人に笑顔になつてもらいたい」と照れながら話してくれました。いくつになっても誰かの役に立ちたいという思いが、臼井さんの元気の源です。

先日、レイアウトを決めるときに鉛筆でササッと描いたおぶちゃんの絵。わりといい出来だと思っていたのに、「これは新しいキャラクター？」と真顔で聞かれてしまいました(泣)。ところで本物のおぶちゃん、ゆるキャラグランプリでみなさんに応援いただき、50位間近です！ ありがとうございます！ 投票は11月10日までですよ～。(加)